

横浜市感染症発生動向調査報告 7月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が増えています。
- 今の時期に多くみられる手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱は、例年より低めの報告数で推移しています。

◇ 全数把握の対象

〈7月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	13件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	梅毒	10件
急性脳炎	2件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 13件の報告(O157が5件(うち無症状病原体保有者が2件)、O26が1件(無症状病原体保有者)、O115が2件(ともに無症状病原体保有者)、O111が1件(無症状病原体保有者)、O145が1件(無症状病原体保有者)、O103が1件(無症状病原体保有者)、O血清群不明が2件(うち無症状病原体保有者が1件))がありました。
- 2 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が2件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 急性脳炎: 2件の報告がありました。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群1件、G群2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が1件、無症状病原体保有者の報告が2件、その他1件報告がありました。性別は男性4件で、推定感染経路はすべて性的接触(同性間3件、異性間1件)でした。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳代の報告が1件(ワクチン接種歴無)、90歳代の報告が1件(ワクチン接種歴1回有)ありました。
- 9 水痘(入院例に限る): 50歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 10 梅毒: 無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。性別は男性6件、女性4件、推定感染経路は性的接触5件、感染経路等不明が5件でした。
- 11 破傷風: 60歳代の報告(ワクチン接種歴無)が1件ありました。

◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。
神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

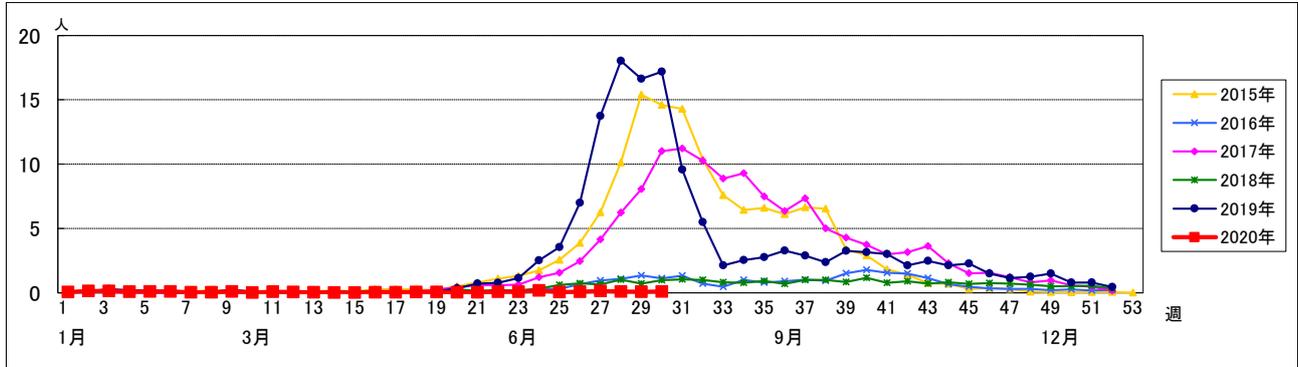
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

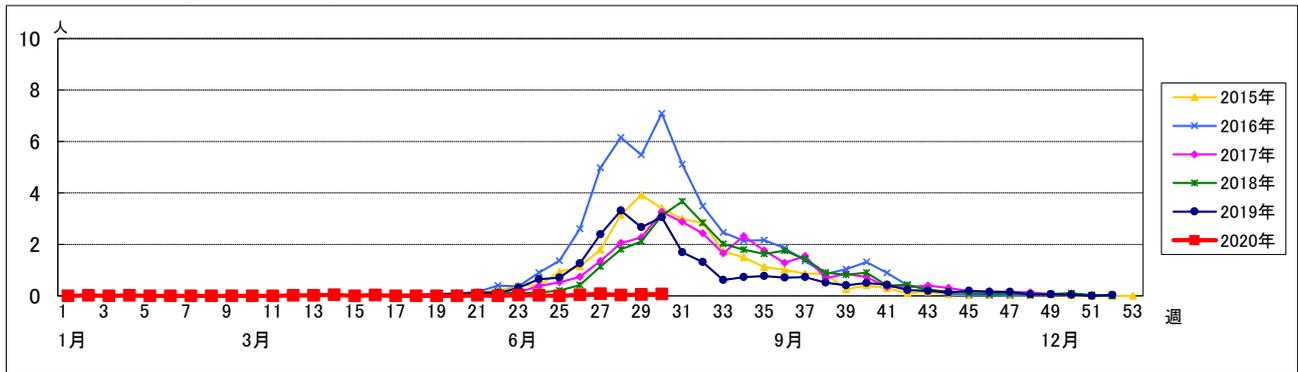
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第26週	6月22日～6月28日
第27週	6月29日～7月5日
第28週	7月6日～7月12日
第29週	7月13日～7月19日
第30週	7月20日～7月26日

1 手足口病:この時期に流行がみられることが多いですが、例年より低めの報告数で推移していて、第30週は0.10となっています。



2 ヘルパンギーナ:この時期に流行がみられることが多いですが、例年より低めの報告数で推移していて、第30週は0.07となっています。



3 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:27件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:8件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:1件	淋菌感染症	男性:14件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週
細菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

7月期(第26週～第30週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件、内科定点3件、眼科定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

8月6日現在、表に示したアデノウイルスの分離株1例と、ライノウイルス遺伝子11例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果7月期(2020年第26週～2020第30週)

臨床症状 分離・検出ウイルス	上	下
	気 道 炎	気 道 炎
アデノ 2 型		1
ライノ	7	4
合計	7	4

上段:ウイルス分離数

下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

7月期(2020年第26週～2020年第30週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、侵襲性肺炎球菌1件、サルモネラ属菌3件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌2件、B群溶血性レンサ球菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌10件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、バンコマイシン耐性腸球菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌3件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ3件の検査依頼がありました。小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌3件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2020年第26週～2020年第30週）

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	腸管出血性大腸菌	1	O111 : H- VT1 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Citrobacter braakii</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
医療機関	サルモネラ属菌	3	<i>Salmonella</i> Manhattan (2)、 <i>Salmonella</i> Saintpaul (1)	
非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Escherichia coli</i> (1)	
	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌	2	<i>Sphingomonas parapaucimobilis</i> (2)	
	B群溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌 III型 (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	10	O157 : H7 VT1 VT2 (2)、O157 : H7 VT2 (1)、 O26 : H11 VT1 (1)、O111 : H- VT1 (1)、 OUT : H- VT1 (1)、O84 : H-VT1 (1)、 O115 : H10 VT1 (1)、O174 : H21 VT2 (1)、 O174 : H-/Hg8 VT1 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> (2)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecalis vanB</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	3	B群溶血性レンサ球菌 II型 (1)、 G群溶血性レンサ球菌 (2)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ	3	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)、不検出 (1)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	3	TB3264 (2)、T11 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】